

ぼうえい

vol.66(2026.春号)



伊勢湾における機雷戦訓練及び掃海特別訓練に向けて着岸する掃海艦艇
(写真撮影：東海防衛支局)

目次

- 1 令和7年度機雷戦訓練(伊勢湾)及び掃海特別訓練(日米共同訓練)
- 2 掃海業務の概要
- 3 陸上自衛隊記念行事(明野駐屯地、豊川駐屯地)
- 4 東海防衛支局の政策広報
令和7年度方面隊災害対処訓練「07南海レスキュー」
- 5 陸上自衛隊明野駐屯地所属ヘリコプターと東海防衛支局との関わり
- 6 「愛三岐のまちから」愛知県名古屋市
- 7 防衛省職員採用に関するご案内



令和7年度機雷戦訓練（伊勢湾） 及び掃海特別訓練（日米共同訓練）

海上自衛隊は、令和8年2月1日から10日までの間、伊勢湾において全国の掃海部隊から艦艇及びヘリコプターを集結させ、機雷戦訓練及び掃海特別訓練（日米共同訓練）を実施しました。

機雷戦訓練は、機雷敷設訓練、掃海訓練及び潜水訓練を実施するものであり、海上自衛隊の機雷戦能力の向上を図るとともに、実任務に即応できる練度を有する隊員の拡充を図るものであり、与えられた任務を円滑かつ効果的に遂行する上で必要な訓練です。また、掃海特別訓練は、同期間、同海域で日米の隊員による共同した掃海訓練を実施するものであり、米海軍との更なる共同作戦能力向上を図ることを目的としています。

加えて、わが国は四面を海で囲まれており、海上交通路を経て資源や食料の多くを海外に依存しています。このため、わが国の生存と繁栄の基盤を確保するための生命線である海上交通の安全確保等のための重要な訓練です。

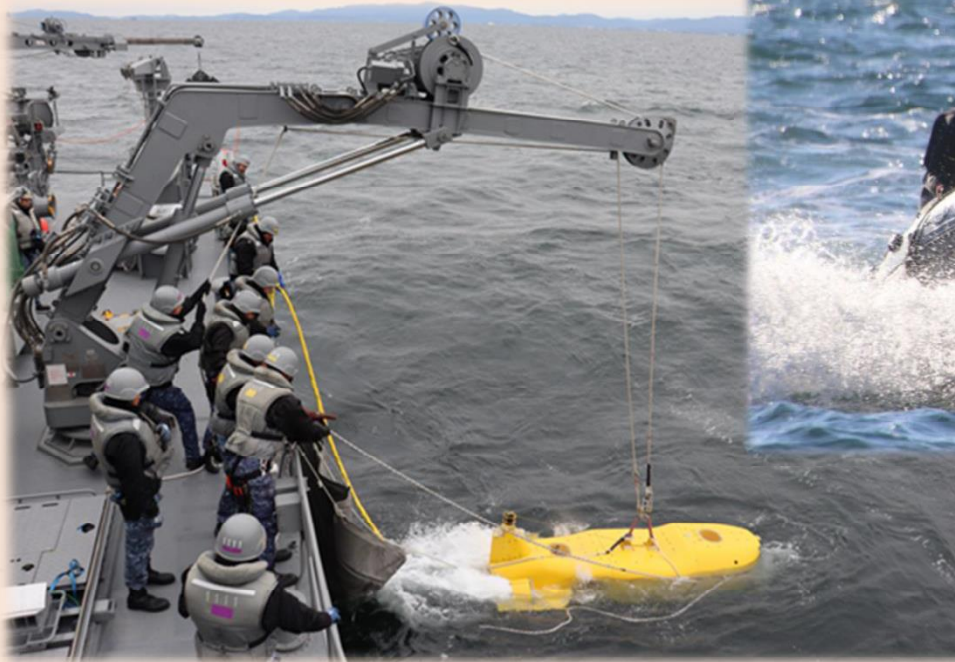
なお、2月の伊勢湾は「鈴鹿おろし」による強風が吹く厳しい環境下での訓練となることから、練度をより向上させることができる場となります。

東海防衛支局としては、伊勢湾において機雷戦訓練及び掃海特別訓練が継続的に実施できるよう、漁業関係者及び地方公共団体等の皆様に引き続き丁寧に説明するとともに、平素から良好な関係構築に努めてまいります。



【訓練に先立ち衣浦港に集結した掃海艦艇】（海上自衛隊掃海隊群HPより）

【下：機雷処分具を投入する様子】



【上：処分艇に乗る水中処分員】
（海上自衛隊掃海隊群公式Xより）

令和8年2月7日、寒気（鈴鹿おろし）の南下が心配されましたが、松阪港（大口埠頭第2岸壁）から、掃海艇「はつしま」へ乗艇し、出港見学、機雷戦訓練の概要説明（掃海艇の任務、訓練の状況等）、訓練見学、艇内見学、入港見学が行われました。

当研修には東海防衛支局職員も参加し、実際の訓練の様子を見学しました。

はつしま・・・

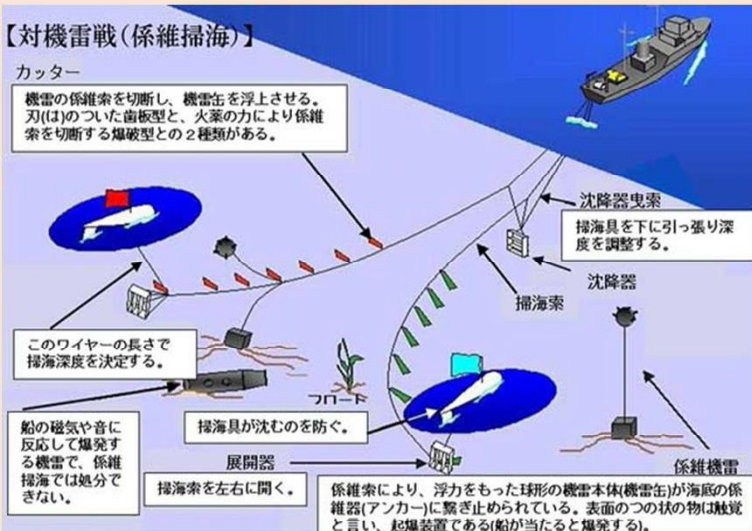
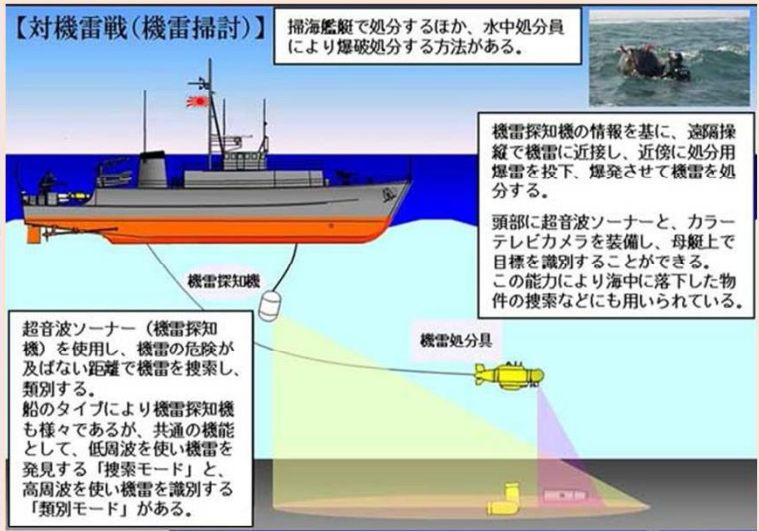
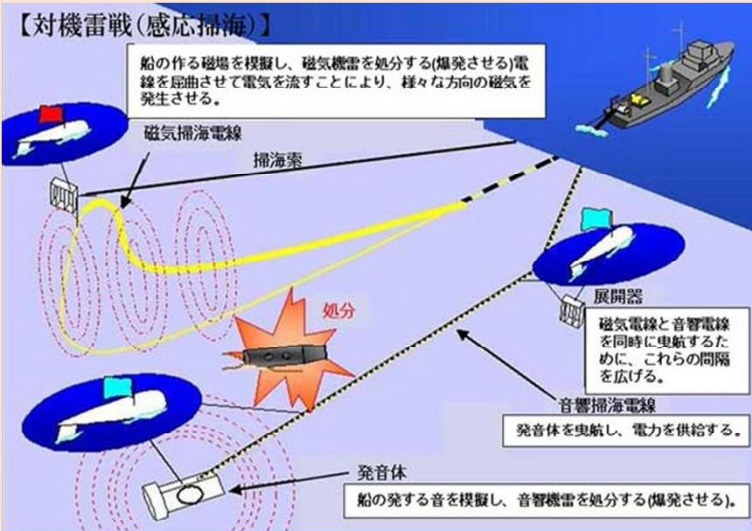
第44掃海隊に編成されている掃海艇。船体・上部構造物にFRP（強化プラスチック）が採用されている。



【第44掃海隊司令からの説明を受ける東海防衛支局長、同次長】

掃海業務の概要

（図は海上自衛隊掃海隊群HPより）



機雷掃海・・・機雷を爆発させて処分する。

- ▶感応掃海：磁気・音響・水圧などに反応する機雷に対し、模擬的に艦船がいるように装い爆発させる。
- ▶係維掃海：係維機雷に繋がっているワイヤーを切断し、海面に浮き上がってきたところを射撃などで爆発させる。

機雷掃討・・・機雷を見つけ、処分する。

- ▶機雷掃討：海底深部などに敷設された機雷をソナーなどで探知し、機雷処分具等で処分する。水中処分員が処分を行うこともある。

陸上自衛隊記念行事（明野駐屯地、豊川駐屯地） 東海防衛支局の政策広報

陸上自衛隊では、令和7年11月22日に「航空祭（明野駐屯地開設70周年、航空学校創立73周年記念行事）」（三重県伊勢市）が、同月29日に「豊川駐屯地創立75周年記念行事」（愛知県豊川市）が開催されました。航空祭や記念行事では、航空機の飛行、訓練展示、装備品展示などが行われ多くのの方々が来場しました。



航空祭（明野駐屯地開設70周年、航空学校創立73周年記念行事）

★ 来場者数は約15,000人

（写真提供：明野駐屯地）



【飛行教導隊（CH-47JA）と第33普通科連隊が協同したヘリポーン展示】



【TH-480B、UH-2を先頭に全21機による観閲飛行離陸時の様子】



【10年ぶりに姿を現したOH-6D※に試乗する来場者】
※現役機であるOH-1の先代機。平成27年に運用停止。



豊川駐屯地創立75周年記念行事

★ 来場者数は約8,000人

（写真提供：豊川駐屯地）



【訓練展示の様子】（155mm榴弾砲FH70による空砲射撃）



【ふれあいステージの様子】（第10音楽隊）

広く国民の皆様から防衛に対する理解を得るため、明野駐屯地開設70周年記念行事や豊川駐屯地創立75周年記念行事において、職員による防衛政策に係るパンフレットの配布・説明、白書ダイジェストのパネル展示、政策広報ビデオの上映等を実施する

とともに記念クリアファイルや缶バッジを配布をしています。



防衛白書チラシ

記念缶バッジ

記念クリアファイル

自衛隊
の活動

令和7年度方面隊災害対処訓練「07南海レスキュー」

各支援活動に係る調整

発災直後の初動対処

孤立地域における対応及び 増援部隊を含めた部隊運用

令和8年1月19日から25日までの間、陸上自衛隊中部方面隊は、令和7年度方面隊災害対処訓練「07南海レスキュー」を実施しました。

この訓練は、南海トラフ地震対処の実効性向上を図ることを目的としたものであり、約3,500人の陸・海・空自衛隊員のほか、約200人の米軍海兵隊、45の自治体等及び23の企業等が参加しました。

東海地区においては、自衛隊と愛知県・三重県内の関係自治体及び関連企業等が連携し、情報共有、人命救助活動、生活・インフラ支援及び物資・人員輸送といった実践的な訓練が田原市や津市などで行われました。

防衛省・自衛隊は、引き続き、地域の皆様の生命と暮らしを守るため、この演習で得られた成果を関係自治体等と共有するとともに、今後の災害対策に活かしてまいります。

エアクッション艇による海上輸送

V-22オスプレイによる物資輸送

災害派遣医療チームとの連携

陸上自衛隊明野駐屯地所属ヘリコプターと 東海防衛支局との関わり

本号で令和7年11月22日に陸上自衛隊明野駐屯地（三重県伊勢市）で開催された「航空祭」を紹介しており、明野駐屯地に所属しているヘリコプターのうち東海地区で製造・修理等が行われ、東海防衛支局装備課及び岐阜防衛事務所において納入に係る監督・検査をしている「輸送ヘリコプターCH-47J/JA」、「観測ヘリコプターOH-1」及び「多用途ヘリコプターUH-60JA」について紹介いたします。

（写真出典：陸上自衛隊HPより）



輸送ヘリコプター CH-47J/JA （愛称：チヌーク）

岐阜県各務原市に所在する川崎重工業(株)岐阜工場において製造・修理等がされています。本機は、乗員のほか中砲、車両等の空輸も行える機体で、最大で58名（パイロット2名、機上整備員1名を含む）の人員を輸送することができます。輸送能力として、機内以外にも物資を吊り下げて空輸することもできる機体です。また、災害派遣において林野火災における空中消火や医療施設が不足している離島などでは救急患者の輸送などにもあたっています。

観測ヘリコプター OH-1（愛称：ニンジャ）

本号の明野駐屯地航空祭紹介の写真にあります「OH-6D」の後継機です。機体を岐阜県各務原市に所在する川崎重工業(株)岐阜工場において、エンジンを愛知県小牧市に所在する三菱重工業(株)名古屋誘導推進システム製作所小牧北工場において純国産機として製造され、現在は定期修理等がされています。本機は、縦列2名の座席で機体本体の幅は1mしかないため、レーダー反射面積が小さく、目視発見率も低い形状となっています。敵地上部隊の状況を昼夜を問わず探知、識知できる機体です。

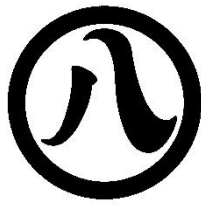


多用途ヘリコプター UH-60JA （愛称：ブラックホーク）

愛知県豊山町に所在する三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場において製造され、現在定期修理等がされています。本機の胴体左右にはスライド式の大形ドアが設置され、飛行・着陸時に迅速な乗降ができ、最大で14名（パイロット2名を含む）の人員が搭乗できる広い機内を有しています。夜間や悪天候でも飛行できる能力があり空中機動作戦、捜索救助活動や医療施設が不足している離島などでは救急患者の輸送など多岐にわたる任務に使用されている機体です。



東海防衛支局は東海3県（愛知県、岐阜県、三重県）を管轄しており、今回紹介したCH-47J/JA及びOH-1（機体）は岐阜県管轄の岐阜防衛事務所において、OH-1（エンジン）及びUH-60JAは愛知・三重県管轄の東海防衛支局装備課において、要求される品質の確保及び安全管理に留意しつつ納入に係る監督・検査等を実施しております。



「愛三岐のまちから」

なごや

愛知県 名古屋市



【武将ゆかりの歴史、文化が根付くまち】

名古屋は日本のほぼ中央に位置し、人口が230万人を超える中部地方の政治・経済・文化の中核都市です。熱田神宮や織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑、尾張徳川家に代表される歴史や文化は、名古屋の魅力や活力の礎となっています。

一方で、製造業をはじめとする強固な産業基盤に、スタートアップや研究開発の動きが融合し、新たなイノベーションをたくさん生み出す力がある都市でもあります。住みやすく、働きやすい、都市機能が集積しているのにゆとりがある、やさしい大都市名古屋。リニア中央新幹線の品川-名古屋間の開業も予定されており、人々の交流と地域経済のさらなる発展が期待されます。



【リニア中央新幹線の開業に向けまちづくりが進む名古屋駅】

今年は「第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）」及び「第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）」が開催され、両大会を通じてメイン会場となる名古屋市瑞穂公園陸上競技場をはじめ、市内を中心にアジアトップアスリートによる熱戦が繰り広げられます。

両大会の開催を契機にスポーツの振興を図るだけでなく、名古屋市が抱える社会課題などを解決し、住みよいまちづくりを目指します。スポーツを通じて市民の健康増進と地域活動の活性化を図るとともに、大会を通じて多様性への理解を促進し、国際感覚を持つ市民を増やし、大会で活用する都市基盤や先端技術も活用していくことで、スポーツを名古屋市の新たな都市ブランドとして確立してまいります。



ひろさわ いちろう

広沢 一郎 名古屋市長

住みやすく、働きやすい、都市機能が集積しているのにゆとりがある、やさしい大都市名古屋。リニア中央新幹線の品川-名古屋間の開業も予定されており、人々の交流と地域経済のさらなる発展が期待されます。



【瑞穂公園陸上競技場©2021(株)瑞穂LOOP-PFI
※画像はイメージ】

自衛隊との関わり

市内には陸上自衛隊守山駐屯地があります。守山駐屯地の部隊には、災害派遣はもとより、日ごろから、防災・国民保護などに関わる各種訓練に参加いただいています。

また、災害時に一部の施設を住民の一時緊急避難場所として開放する協定を締結いただくなど、地域に根差した駐屯地となっています。今後も災害時はもとより、平時から連携を強めていき、協力関係をより強固なものにしてまいります。



【令和7年度なごや市民総ぐるみ防災訓練】

防衛省職員採用に関するご案内

東海防衛支局では、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験・高卒程度試験・社会人試験（係員級））の合格者から防衛省職員を採用しており、職員の採用に関する説明会を随時実施する予定です。

説明会では、防衛省に関する説明や当支局の業務説明のほか、現役職員との懇談等を行っています。また、陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地において職場見学説明会も計画する予定です。

国家公務員志望で防衛省に興味のある方は、是非ご参加ください。

参加には事前申込みが必要となりますので、詳しくは当支局又は防衛省のホームページをご確認ください。

<今後の予定>

6月中旬 業務説明会（大卒程度）

職場見学説明会（大卒程度、高卒程度、社会人）

7月上旬 官庁訪問（大卒程度）

8月中旬 採用面接（大卒程度）



東海防衛支局ホームページ「採用情報」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/recruit/>

お問い合わせ先：東海防衛支局 総務課 052-952-8221

おまちしています



自衛隊地方協力本部からのお知らせ

※ 地方協力本部（地本）は、各都道府県にある自衛隊の総合窓口です。

愛知地方協力本部

（電話）052-331-6266

<https://www.mod.go.jp/pco/aichi/>



●「自衛隊 広報ROOM」（名古屋市中村区椿町21-2 第3太閤ビル1F）

自衛隊の活動などの写真パネルや模型、オートバイ（偵察用）などを展示している楽しめるスポットです。年間3回ほど、自衛隊グッズがもらえるイベントも開催していますので、ぜひ、お気軽に遊びにきてください。

岐阜地方協力本部

（電話）058-232-3127

<https://www.mod.go.jp/pco/gifu/>



● 自衛隊広報センター（岐阜市神田町9-4 KJビル1F）

オープンな雰囲気の中、自衛隊の魅力を説明するミニ説明会を毎月実施しています。また、自衛隊の装備品も複数展示しています。実機の部品を使ったF-4ファントム模擬コックピットもあります。自衛隊に関するご相談お待ちしております。

三重地方協力本部

（電話）059-225-0531

<https://www.mod.go.jp/pco/mie/>



● フリースペースをオープンしました！

近鉄四日市駅前、津市本部、四日市事務所、伊勢事務所、熊野事務所にフリースペースがオープン！左記二次元コードから航空機の体験搭乗や基地見学（体験喫食など）等、楽しいイベントの案内をしています！フリースペースご来訪時には、レアなグッズが手に入るかも？！

【発行】東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館（電話）052-952-8212

2026年(令和8年)春号（通巻第66号）<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>

